

令和元年8月近江八幡市教育委員会臨時会（要旨）

1. 開催日時 令和元年8月23日(金)9時00分～13時53分

2. 開催場所 水道事業所3階A・B会議室

3. 出席委員

教育長	日岡昇
教育長職務代理者	久家昌代
委員	八耳哲也
委員	安倍映子
委員	西田佳成

4. 事務局出席者

教育部長	小林一代
教育部次長兼学校教育課長	野瀬準子
教育総務課長	秋山直人
学校教育課参事	森茂次
学校教育課指導主事	長田かおり
教育総務課長補佐	畑明宏
教育総務課副主幹	澤千央

5. 会議を傍聴した者 5人

6. 会議次第

【議案】

○議第 51 号「令和 2 年度から使用する小学校教科用図書および小・中学校特別支援教科用図書の採択につき議決を求めることについて」

7. 議事の経過

(1)開 会(日程確認) 教育長が8月臨時会の開会を宣言
出席委員定数の確認

本日は、議案は1件ですが、教科用図書ごとにご審議いただくため、お手元にお配りしましたタイムスケジュールに沿って原則として進めさせていただきますので、よろしくお願いします。

滋賀県教科用図書第3ブロックに出席しました学校教育課参事より説明いただきます。よろしくお願いします。

(2)議事

議第 51 号「令和 2 年度から使用する小学校教科用図書および小・中学校特別支援教科用図書の採択につき議決を求めることについて」

○事務局（学校教育課）

資料の見方についての説明

評価の観点について説明。

【小学校「道徳」教科用図書の選定理由の説明】

道徳では、考え議論する道徳が大切といわれていますが、そうした多面的多角的に考え、多様な考えが出る「力のある教材」が多く掲載されている教科書が、日本文教出版（以下日文）でした。

教科書を見ながら、同じ教材で比べて検討した内容を話します。

日文 1 年生 48 ページに掲載の「はしのうえのおおかみ」とあかつき 1 年 72 ページ掲載の「はしのうえのおおかみ」では、挿絵に大きなちがひがあります。自分より力の弱い動物を見ると橋の上から追い返していたおおかみが、橋の上

で出会ったくまに抱っこしてもらって橋をわたしてもらい、親切な行為の良さに気づきます。そして、自分も小さな動物たちを抱っこしてわたしてあげるようになるのですが、日文は小さなうさぎを抱き上げるおおかみの挿絵があるのにあかつきにはそれがありません。道徳の学習において、挿絵はとても大切です。このように同じ教材をもとに検討してきました。

次に、「手品師」という教材ですが、これは8社ともすべての教科書で使われています。(東書6年P102、学校図書5年P78、教育出版6年P30、光村6年P99、日文6年P90、光文5年P168、学研5年P76、あかつき6年P28に掲載されています。)

日文と学校図書を比較してみます。
この教材で子どもたちは「誠実」という価値について考えていきます。ひとりぼっちで寂しい男の子に「明日もまた来て手品を見せる」という約束をした手品師。しかしその晩友人から「大舞台に出るチャンスができたからすぐくるように」という電話がかかる。手品師は葛藤するのですが、受話器を持ちかえてきっぱりと「行けない」と断ります。このとき、手品師は自分の言葉に正直に生きようと考えたわけです。この思いを子どもたちに深く考えてほしいのです。ですから、「受話器を持ちかえきっぱりと断った手品師はどんなことを考えていたのでしょうか」と問いたい。このねらいに迫る挿絵があるのは日文だけです。

また、次に、日文の道徳ノートについてです。必ずしも必要ではないが、道徳の学習において書く活動は自分の考えをしっかりと持つ上でも必要です。別冊でノートがあるとそれを持ち帰らすことで保護者にも学習の様子を伝えることができとても効果的であると考えます。日文のものは、中心発問をじっくり考えるために書いたり、今までの自分をふり返って書いたり、いろいろな使い方をすることができます。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「日本文教出版 小学道徳 生きる力 道徳ノート」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

基本的に8社の中で同じ教材を使って比較されるという観点で評価されたのですが、ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

道徳の教科化の理由としていじめ問題の解消があるかと思いますが、それを

どのように考えさせていくのか。特に小さい子どもたちは考える力をより確かなものにしていくため、視覚提示：挿絵というのは重要な教材であるとの認識をしました。「はしのうえのおおかみ」の表情などを子どもたちはしっかりとらえるだろうなと思いました。しかし、教材の中にはこのようにとらえていくのかと考えさせられるものがありました。学校教育の中で教材を先生方がどのように使っていくのか、指導の在り方等で十分考えていただくことを希望します。

○八耳委員

一番印象だったのが表紙。道徳は生きる力がキーポイントだと思いますが、日文は写真が使われており非常に印象的でした。中身については、子どもたちへの思いが押し付けでなく、表現が易しく広く感じられました。

○西田委員

日文1年生の1、2ページが子どもたちの想像力を掻き立てる挿絵で、大変よかったです。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**日本文教出版**の「**小学道徳 生きる力 道徳ノート**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

○教育長

全員賛成で、**道徳科**は**日本文教出版**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「国語」教科用図書の選定理由の説明】

小学校国語では4社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい国語」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由を6年生と1・2年生の教科書を中心にいくつ述べさせていただきます。

まずは、東京書籍の教科用図書について見ていきます。

第6学年の教科書P34をご覧ください。

このように、主要な単元では、見開きの2ページを使って、単元名やその単元で学習する「言葉の力」、そして、「つかむ」として、学習内容を具体的に示しています。また、教材名と教材への誘いの文章が記されています。このように、単元での学習の導入部分を大切に作る工夫は、本教科書の特徴であり、児童が意欲を持って主体的に学習に向かえるような手立てとして、大変有効であると評価できます。

続いて、東京書籍、第2学年下の教科書をご用意ください。122ページの本文、5行目をご覧ください。

「五十円玉の□まん中には、あなが□あいて□います。」というように、主に文節で区切って間隔を開けて記述されています。これは、「分かち書き」と呼ばれる表現方法で、特に、入門期の児童などに、文の意味を捉えやすくするための工夫です。

どの教科書においても、入門期、1年生のはじめは、この分かち書きが採用されていますが、教科書によって、どの時期まで採用するかは異なっています。東京書籍の教科書では、一番長く、第2学年の下の最後まで分かち書きが使われており、外国籍の子ども、特別支援の子どもなど様々な児童への配慮として、調査員一同評価しております。

先ほど、5行目をご覧くださいと申し上げたときに、お気づきいただいた方もおられるかもしれませんが、脚注罫線に5行ごと数字とともに、1行ごとに点が打たれています。細かな点ではありますが、「○ページの○行目に・・・」などと、児童が場所を確認する際に、対話的な学びの際に有効な配慮であります。

続きまして、学校図書の教科用図書について見ていきます。

第6学年上の教科書をご準備ください。まず、P7には、「○年生でつきたい力」のページが設定されており、国語の力として1年間で学ぶことが示されています。ただ、単元とのつながりが、わかりにくい点は残念に感じます。

42ページをご覧ください。「読む」ことの学習をする単元です。右側に、学習の主題と言うべき事柄と、これを具体化した学習内容を示されています。ただ、単元の導入の工夫としては、取り上げるべきものは見当たりません。

続きまして、教育出版の教科用図書について見ていきます。

第6学年上の教科書をご準備ください。21ページをご覧ください。このペー

ジは、ここから始まる学習単元の扉とも言えるページです。大まかな学習内容と教材名、そして、簡潔な文章で単元の学習への誘いが記されていますが、具体的な、学習内容や方法については示されていません。

66 のページ「話す・聞く」の学習、72 ページからの「書く」ことの学習ページともに、同じように、冒頭のページの下段に、「見通しを持とう」として、学習の流れが示されています。「地域防災」という今日的な課題を取り上げつつ、パネルディスカッションという場面設定で、多様な「話す・聞く」の経験を積むよう工夫されています。

最後に、光村図書の教科用図書について見ていきます。

6年生の17ページをご覧ください。主要な単元には、このように扉のページが設けられ、学習のねらいと教材名そして、簡潔な文章で単元学習への誘いが記されています。また、「これまでの学習」「5年生の学びを確かめよう」として、先程ご覧いただいたページが示す工夫がなされています。前2種類の教科書同様、17ページを見るときに16ページがどうしても目に入ることから、扉に集中できない児童がいるだろうという点は、教科書の構成として気になるところです。

ご覧いただきましたように、本教科書は、東京書籍の教科書と同様に、第4学年までは上・下2冊編成、第5・6学年は1冊編成となっています。確かに、1冊とすると、重さが課題となるころではありますが、年間を通して見通しをもって学習することや、学習を振り返り関連付けるなどして力の定着を図るために有効であると考えられることから、第5・6学年で1冊としたことを評価しています。

総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 新しい国語」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、気づかれたこと、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

分かれ書きは大事だと改めて思いました。分かりやすい。見開きでどのように読み取るのか、見開きの在り方も大事だと思いました。視覚支援というのは、特に特別支援の子どもにはユニバーサルデザインは理解力を高める上でも大事

です。

就学前で絵本に慣れ親しみ楽しんできたことが、教科書を通して学ぶ喜び、楽しさにつながっている内容を提示されていることが大変嬉しく思いました。

また、学校に行くと何か書きたい、鉛筆を持ちたいという子どもたちの気持ちに寄り添い、ノートの置き方、姿勢、手の置き方等も含め分かりやすく書かれています。

○八耳委員

紙の白さが違うと感じました。東京書籍は白が強く字が読みやすかった。

また、教科書を使う上で、開けやすさも大事だが、東京書籍は非常に開きやすいと感じました。

○西田委員

どれも素晴らしいが、東京書籍の例えば6年88ページでは、6年向けはこんなものがあると本の紹介があり素晴らしい。近江八幡の読書の方針とオーバーラップするのではないか。

○安倍委員

東京書籍にお知らせ（訂正文書）がはさんである。「耳や口」が障がいという捉え方はどうかと思います。

○事務局

改めて確認し回答します。

【採決】

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**新しい国語**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

○教育長

全員賛成で、**国語科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「書写」教科用図書の選定理由の説明】

9:42 久家委員 途中出席

小学校書写では5社の検定教科用図書があります。
調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい書写」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

1 番目は東京書籍です。

東京書籍の一番の特徴はAB版であることです。紙面の広さを生かして、さまざまな工夫がなされています。例えば、3年生以上は左側に「書写のかぎ」のインデックスが共通でついており、自分でいつでも活用することができます。手本の文字も大きく示してあります

次に、主体的な学びを引き出す工夫がなされています。2年生の教科書をご覧ください。1, 2 ページには、目次とは別に、1年間の学びの見通しが持てるよう、全体の流れが目当てとともに示してあります。前年度に学習した「書写のかぎ」も示してあります。3 ページには「書写の学び方」が示され、整った文字を書くための原理・原則をほかの文字に生かすこと、ふだんの生活やほかの教科の学習に広げること意識した作りになっています。巻末には、1年生からのその学年までの「書写のかぎ」が示してあります。また、左利きの子どもへの配慮は東京書籍だけです。2年生の教科書の7ページをご覧ください。また、17 ページでは、利き手に関係なく書けるよう、お手本の下や左右どちらかに書くように工夫されています。3年生の教科書5ページをご覧ください。3年生以上でも毛筆の準備のところでも左利きに触れています。

次は 学校図書です。

1年生の教科書5ページをご覧ください。「手の置き方」の写真が小さく実際に置いて比べることができません。8ページをご覧ください。硬筆の手本となる文字がほかと比べて小さく、黒1色であり、学習をガイドするキャラクターのほうが目立っています。20ページから23ページには確かめて書こう、考えて書こう、いかして書こうという学習の進め方について説明があります。

次は、教育出版です。

1年生の教科書3ページをご覧ください。「手の置き方」の写真が小さく実際に置いて比べることが難しいのではないかと。12・13 ページでは、一度にたくさんの書き方を学ぶことになっており、1年生にとっては盛りだくさんです。

次は、光村図書です。

1年生の教科書6・7ページは実物大のイラストで鉛筆の持ち方が示してあり、

実際に子どもが手を置いて比べやすくなっています。光村の一番の特徴は、あと少しが難しいところを、わかりやすく丁寧に解説しているところです。9ページをご覧ください。縦の線、横の線を書くときの手の動かし方まで説明してありますし、各学年の「たいせつ」なことは、巻末にまとめてあります。

最後に、日本文教出版です。

1年生の教科書8, 9ページをご覧ください。一年間のめあてと学習の進め方「考える・確かめる・生かす」について示してあり、子どもが主体的に学べるように工夫してあります。3年生の教科書をご覧ください。28ページ「そり」の筆づかいの学習のページです。穂先のイラスト、朱と薄墨とで筆の穂先の通り道がよくわかる工夫や折れるところで「止まる」ということが理解しやすい工夫がされています。

総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 新しい書写」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○八耳委員

姿勢はものすごく大事。「ぴんぺたとん」は共通語ですか？

○事務局

教科書によっても学校によっても少しずつ違います。本当は揃うと合言葉になって望ましいのだがという意見が協議会でもありました。

○安倍委員

1年生が迷うことなく国語と書写は同じにしておくことが大事だと思います。右利き、左利きがあり、右が主流だった時代とは違い、左利きでもいい、どちらでも使える、東京書籍2年生の17ページを見ると、両サイドに（右にも左にもある）見本の配慮があるのは素晴らしい。やさしいな、あったかいなと感じました。

○西田委員

重複しますが、私自身の娘が左利きなので、このような配慮は非常にありがたいです。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**新しい書写**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**書写科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「社会」教科用図書の選定理由の説明】

小学校社会では3社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「日本文教出版 小学社会」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

東京書籍の教科書について説明いたします。

6年生政治・国際編 56 ページを見てください。社会的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びができるように考える場面を提示していることがわかります。これから求められている力でもあります。

次に6年政治・国際編 46 ページを見てください。エネルギーや防災教育など、現代的課題についての充実を図っています。

次に、3年の 14, 15 ページをご覧ください。見開き部分に工夫がなされ、問題解決意欲を高めることができるよう工夫されています。39 ページをご覧ください。グラフがあります。2学期よりいくつかの箇所で棒グラフによる提示が見られますが、算数では3年生の3学期の最後に学習することからも、統計資料の表示の仕方が学年の発達に即していない面が見られ、表現の仕方が適正でない部分があるということもありました。

3年生 20 ページをご覧ください。このように、時折、写真などの資料の情報量が十分でないものも見られます。

5, 6年生は分冊で年間を通した児童の連続的な学びによる深い学びをしていく過程において十分でない面がうかがえます。

次に、教育出版です。

3年1ページから3ページのように、低学年とのつながりや他教科との関連を意識させ、スムーズに社会科の学習を始められるように工夫されています。ただ、3年52, 53ページのように文書量と資料のバランスが十分でなかったり、3, 4年については、他2社と比べて全ページ数が多かったりしていることで、分量として適切でない面もうかがえました。

次に4年120ページを見てください。3, 4年生は、「この時間の問い」の下に1時間の学習展開が示され、同じく4年130ページのように、まとめ・ふりかえる場面において、学習問題が再表示されているので、問題解決的な学習が展開できやすいと考えました。

6年128, 129ページ「全国統一を目ざした織田信長」の部分では、想像図が大きく、安土城や樂市・樂座の様子がわかりやすい工夫がされています。

最後に日本文教出版です。

5年71ページをみてください。新学習指導要領では全教科で見方・考え方を働かせることを重要としていますが、「見方・考え方」の欄を効果的に設け、児童が社会的な見方・考え方を働かせて、主体的対話的で深い学びができる内容となっています。

また、他学年との関連を意識した内容に配列し、問題解決的な学習が発展、進化していくようになっています。例えば、4年68.69ページで「かんきょうを守る取組」を紹介し、5年238ページからは四日市公害について詳しく学び、6年44ページでは、水俣病の経験から環境に配慮した内容が記述されています。内容・配列が優れています。

6年260ページからは国際理解、国際協力についてSDGsをもとに幅広く記述されています。次に6年132ページをご覧ください。歴史における想像図は、大きく情報量が多いので、学習問題をつくる場面や学びを深める段階において、学びに向かう力を高めることができます。

造本も、各学年1冊にまとめられており、学習の連続性が見通せ、深い学びにむすびつきます。

最後に、6年生では38ページのように豪雨災害を取り上げており、各学年で実情に応じた学習ができます。また、3年94ページからは、湖南広域消防局が取り上げられていることや、5年の米作りの部分の「水かがみ」の写真など滋賀県内も事例も多いです。6年生の織田信長も丁寧に記述されており、6年143ページのように朝鮮通信使についても雨森芳洲や料理の復元など身近な地域を探究するのに適していると言えます。全般的に他2社と比べ、より本地区の実情にあっていると考えます。

総合的に判断し、調査研究部会から「日本文教出版 小学社会」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

社会科は、自分たちの生活にどう生かしていくか、単元をどの順で学習していくかが大事。先日、馬淵小学校の発表があり、水環境と子どもたちが生きる命を提案してくれました。その発表も、震災、台風、災害というものをどう捉えていくのかを焦点に充てた学習発表であったと思いますが、そのことがこの中に充実して書かれていました。

また、黒板とノートをどう1つのものにしていくのか、ノートをどう活用していくのか提示されているのは分かりやすいと思いました。

○西田委員

日文は、単元ごとに時代が書かれていて、どういう時代の流れでどこの時代を今学習しているのかが非常にわかりやすく提示されていると感じました

○久家委員

日文は織田信長や朝鮮通信使のことも書かれていて、ふるさと学習に力をいれている本市では非常に良いと思います。

○八耳委員

3社の中で、日文が、滋賀県の扱いが一番多い。地域の中の社会科であってほしい。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**日本文教出版**の「**小学社会**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**社会科**は**日本文教出版**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「地図」の選定理由の説明】

小学校社会では2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「帝国書院 小学校の地図帳」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

2社ですので見比べながらこれから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

まず、東京書籍では、冒頭8ページに渡り、地図帳の使い方を示しています。また、帝国書院は、同じく冒頭12ページに渡り、「地図の意味」「地図のやくそく」「地図の使い方」をわかりやすく丁寧に示しており、今回の改訂のポイントである3年生からの活用がしやすくなっています。

次に、東京書籍は、75ページのように日本の歴史を扱った部分が丁寧に、地図上の産物などの情報量が多いです。

一方、帝国書院は、産物や名所などの分量がよく、地図そのものが見やすくなっています。東京書籍になく、帝国書院にある地図としましては、22ページのように「広く見渡す地図」が5地域に渡って提示してあることです。3年生段階から、児童が日本を少し詳しく客観的に見ることに役立つのは、帝国書院であると考えられます。

次に、東京書籍は31, 32ページのように、すべての地図で文字を大きくしてあることで余白が少なくなり、土地の配色が濃いので、地図上の文字が読みにくく地形の特徴が十分捉えきれない面があります。特に、45, 46ページにあります関東地方の都市圏図は、読み取りが進みにくいと思われます。一方、帝国書院は、43, 44ページのように配色が適切で文字や記号がとても読み取りやすくなっています。

最後に、東京書籍では、日本列島の地図以外は、滋賀県全域が1ページの中に入っている地図がないので、県としてイメージがしっかりとらえきれないという面があります。それに比べ、帝国書院は、日本列島の地図の他、「広く見わたす地図」22ページにおいて、滋賀県全域が一目で見られるようになっている。46ページ地方図の本地域部分において、観音寺城跡や太陽電池の表記があり、安土城跡や自動車工業と同様、5, 6年生の学習との関連を図ることができ、効果的に活用できると言えます。

このようなことから、調査研究部会から「帝国書院 小学校の地図帳」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

2社ですが比べると、特に色合いなどを同じ地域で比べると分かりやすいかと思います。

○安倍委員

同じところを開けたときに一目瞭然。見て、すぐ分かることは大事だと思います。色の示し方が大きく左右すると感じました。

○久家委員

帝国書院はとても見やすい。広く見渡すということが3年生にとってはとても見やすくてよいと思いました。

○八耳委員

沖ノ島が載っているのは帝国書院のみでした。

○西田委員

東京書籍は、情報量が多いとは思いますが、地図は見やすいに尽きません。帝国は見やすく素晴らしいと思いました。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**帝国書院**の「**小学生の地図帳**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**帝国書院**の**地図**を採択することに決定します。

【小学校「算数」教科用図書の選定理由の説明】

小学校算数では6社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい算数」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

1つ目は東京書籍です。

3年生上 34 ページをご覧ください。学年のどの単元においても、新しい単元の導入段階では、左のページに前学年までの学習が想起できるようなトピックスを提示し、右ページの新しい課題について「考えてみよう」「今までのことを使ったらできそう」という思いをもって主体的に学習を進めていけるようにしています。

5年下 80 ページをご覧ください。学習のしあげ段階では、「いかしてみよう」「たしかめよう」「つないでいこう」など学力学習状況調査で出題された活用する力を問う問題につながるページがたくさん掲載されています。

6年 90 ページをご覧ください。本地域の児童は、いくつもの資料を関連付けて考えるのが苦手という実態があります。「算数でよみとこう」のコーナーは、子どもたちの力をつけるのに、たいへん有効であります。

最後に、他社に無い初めての試みとして、1年の教科書についている別冊をご覧ください。入門期「かず」「なんぼんめ」の単元が別冊になっています。ブロックを使った操作活動や数字の練習などこの一冊で進めることができるのはたいへん魅力的です。

2つ目は大日本図書です。

他社と異なる点は、すべての学年で、分冊ではなく合本です。学びの振り返りや、学びのつながり、また単元の入替えがしやすいなどの利点はあります。しかし、ページ数や重さに配慮している分、練習問題や発展問題の分量はやや少なく感じます。どの教科書もプログラミング教育を意識したつくりになっていますが、特徴としましては、1年から6年までのすべての学年で「プログラミングに挑戦」というページがあり、例えば6年生 194、195 ページ。挑戦ということでプログラミングにつながる考え方を積み上げていく工夫があります。

3つ目は学校図書です。

一番の特徴は、教科書の大きさが他社と異なるA B版であることです。4年下 52、53 ページのように見開きで大きく示したり、グラフや図を書き込んだりする学習にはたいへん効果的です。単元の配列で他社と異なる点があります。

3年の「わり算」と「あまりのあるわり算」です。他社では「わり算」の学習の後、「長さ」や「たし算とひき算の筆算」などいくつかの単元を踏まえたあとに「あまりのあるわり算」の学習を行います。学校図書では続けて学習するようになっています。「わり算」の内容がしっかり定着するには十分時間を確保することが必要と考えており、間を空けるほうが良いと考えています。

4つ目は教育出版です。

単元の配列で特徴的なことは、3年で「小数」と「分数」の学習順序です。

多くの出版社は、これまで学習してきた10のまとまりという考え方を大事にしてきた流れから、さきに「小数」を勉強してから「分数」を学習しますが、教育出版では「分数」を先に学習します。次の啓林館も同様です。

どちらを先に学習するかについては、いろいろな意見がありますが、調査研究部会では「小数」を先に学習する方が子どもたちの理解には自然な流れであると判断しました。

5つ目は啓林館です。

先ほどの特徴に加え、さらに啓林館の単元の配列で特徴的なことは、5年での面積の求め方を学習する順序です。「平行四辺形」と「三角形」の面積、どちらを先に学習するかです。

啓林館では先に三角形の面積を学習します。これは平面図形において最小単位の三角形の面積の求め方さえわかれば、どんな形であっても求められるというものです。

ただ、4年生に長方形や正方形の面積の求め方を勉強しますので、調査研究部会では「平行四辺形の面積」を先に学習する方が自然な流れであると判断しました。

6つ目は日本文教出版です。

表記については、グラフなど見分けやすい色使いを工夫していますが、やや色が多くて逆に見にくい部分があることが気になります。(例えば、3年上 86ページ。)

6年間のまとめに入る前に「マテマランドを探検しよう」というページがあり、エジプト数字や和算など様々な考えにふれるコーナーで興味を持たせるようにしています。内容的にはおもしろいのですが、やや漫画のページが多すぎるのではないかと思います。(例えば、6年 214、219ページ。)

総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 新しい算数」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

算数にどう出会わせていくのかという時に算数の扉を見せてもらって、就学前教育で体験したこと、経験したことが、しっかりと見開きに提示されています。数を数えるにしても知っているものであり、子どもが興味関心を示し、安心できる算数、わかる算数に出会い、楽しい算数に向かっていけるのではないかなと感じました。しばらくたつと算数が嫌いになる子どもがいますが、最初に出会わせるものが大事だと思いました。小学校と就学前教育のどう接点を結んでいくのかというスタートカリキュラムに値するものが算数の扉にはあると思います。

また、3年生の見開いたノートはマイノートをどうやって作っていくのかということが非常にわかりやすいと思いました。

○八耳委員

大日本図書と東京書籍が印象に残りました。

大日本図書は6年 192 ページに琵琶湖の絵が描かれていたのはうれしい。本市の学力調査等で、分数で割るとか論理的に組み立てることが求められている学力だということから、東京書籍（6年 54 ページ）と大日本図書（6年 91 ページ）の分数を比べてみると、いずれもかけ算のおさらいから入りますが、子どもたちが思考を固めていく中で、東京書籍の流れが子どもたちの疑問を細かく追いかけていると感じます。

どの出版社でも記載していますが、中学校につなげていくという部分で、中学校では負の数から勉強しますが、東京書籍の入り方というのは非常に自然な形で入っていると思います。特に中学校から数学に変わるという子どもたちにとっての大きな壁を、よりスムーズにつなげていっているのが東京書籍ではないかと感じました。

○久家委員

算数の扉は、初めて遊びから勉強にかわり、ノートにどのように書いてよいのかも分からない一年生にとって、とても親切な教材であると感じました。

○西田委員

算数の扉が非常に素晴らしい。また、東京書籍 6 年生の表紙にだけ、数学にジャンプと書かれていて、小学校が終わったら数学に変わるんだよと明記されているところも素晴らしいと思いました。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**新しい算数**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**算数科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「理科」教科用図書の選定理由の説明】

小学校理科では6社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい理科」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

まずは、信州教育出版社です。

見本本はありません。信州教育出版社とは、郷土「長野県」に根ざした、信濃教育会の学術研究調査の成果発信の手段である「出版事業」の「受託事業団体」として運営出版されてきたようです。全体的に文字の大きさが小さく、若干読みづらい感じがしました。使用されている画像のコントラストが悪いものがたくさんあり、見づらいつい受けました。

東京書籍の5年生の教科書をお願いいたします。

6・7ページをご覧ください。左下に、[理科のミカタ]と[学んだことを使おう]というのがあります。[理科のミカタ]は、どの学年にも単元のはじめや途中などで適宜出てきます。資料や画像の見方や課題の捉え方の視点のヒントになるよううまく使われています。また、[学んだことを使おう]も、これまでの学習を思い出し、学習を進めていく上で力を付けていくための手助けとなっています。それと、7ページの[学ぶ前のわたし]は、19ページの[学んだ後のわたし]と対応しており、問題解決を進めていく上での意欲づけと、学んだことの振り返りや定着を意識させるのに大変効果的であると捉えます。

5年生の42ページをご覧ください。ここには高島市の画像が掲載されていま

す。また、71 ページの東近江市のダム画像、172 ページの大津市科学館の画像が掲載され、他の学年についても滋賀の画像の掲載があり、身近に感じられるものとなっています。

なお、東京書籍を除く5社がAB版(A4の横にB5の縦)であるのに対して、東京書籍のみが縦も横もA4サイズで、他のものより一回り大きく見えます。画像や図表が見やすく掲載されているのもA4サイズの強みなのではないかという結論でした。

次に、大日本図書の5年生の教科書をご覧ください。

11、18、20 ページなどには、[りかのたまてばこ]で発展内容の掲載があります。やや、単元にたくさんのページがこの[りかのたまてばこ]に使われている感じも受けてしまいます。

22 ページの[確かめよう]で単元の学習の確認、23 ページの[学んだことを生かそう]で発展意識を持たせる工夫があります。

次に、学校図書の5年生の教科書をご覧ください。

問題解決の過程での児童の思考の流れを考えると、26・27 ページ、28・29 ページなど、問題、実験から結果、考察が見開きの2ページに掲載されており、答えが出てしまっているため、子どもたちの思考を高めていくというところについては、裏表にするなどもう少し配慮が必要だと感じました。

次に、教育出版の5年生の教科書をご覧ください。

7 ページには、伝え合い学び合うために言葉について、この学年で大事にしたい内容がまとめられています。また、9 ページには、ノートのとり方の指導があります。このノート指導については、各単元の中でも、必要に応じて参考例を提示し、児童の手助けになる工夫がしてあります。

最後に、啓林館の5年生の教科書をご覧ください。

21 ページには、[理科の広場]として解説や資料、学習の広がり意識したコーナーが設けられています。25 ページには、学習のまとめの段階でのノートの例示や、26・27 ページでの[たしかめよう]で学習内容の振り返りができるようになっています。

全体を通しての単元配列を見てみるとこの啓林館だけ他社と違うところがあります。目次の2 ページをご覧ください。メダカ(魚)のたんじょうとヒトのたんじょうがあります。生命の誕生という点では自然な流れかもしれませんが、他社は違うことを学習した後にヒトのたんじょうを学習します。

他社すべてがこの単元の学習については間をあけて配列しているように、子

どもたちの学習に深まりや多面的に物事を見る力を立てた上で、ヒトのたんじょうへつないでいく方が良いのではないかと、との見解が出されました。

このようなことから、調査研究部会から「東京書籍 新しい理科」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、気づかれたことも含めご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

東京書籍の A 版というのは大きさを非常に効果的に使っている。特にメダカの卵が受精して誕生するところからはリアルで感動というところにまできていると感じました。このことは、今日学んだことをどう心の中で感じ取りながら確認していくのかということにつながっており、さらには、課題意識や今後の方向性も見出しているとも感じます。これは、大きな学びの教科書に匹敵するのではないかと思います。

○八耳委員

東京書籍の 1 ページ目は非常にインパクトがあります。大きくした理由が読み取りやすかった。大きくしたことはよいと思いますが、この大きさはランドセルに入りますか？

○事務局

入ります。

○久家委員

どの出版社でも問題、予想、まとめと書いてあるが、東京書籍が一番分かりやすいと思いました。

○西田委員

東京書籍は表紙 3～6 年。「見つけたい」「確かめたい」など理科の真髓が書かれています。見開きには、疑問に思うことが明記されていてよいと思います。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**新しい理科**」を採択することに賛成の

方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**理科科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

(この時点で傍聴者3人)

【小学校「外国語」教科用図書の選定理由の説明】

小学校英語では7社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 NEW HORIZON Elementary」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

東京書籍です。

教科書以外に小学校英語で学ぶ単語や表現が別冊の Picture Dictionary にまとめられ、授業だけでなく家庭学習においても QR コードによるデジタルコンテンツを通して英語の音と文字にふれることができ、子どもたちの「英語を学びたい」気持ちを高める工夫がみられます。

また、表記はすべて4線で別冊になっているため、書き写す学習に使いやすい。東京書籍は「Hi, friends!」「We Can! (3・4年生用教材)」「Let's Try! (5・6年生用移行教材)」に限りなく近い構成となっています。各 Unit が音に出会う、会話に慣れる、コミュニケーションを楽しむ、世界を広げるの4段階で構成され、年間を通して英語力だけでなく相手意識とアウトプットを大切に一体化した学習の流れになっています。また、まとまりのある長い会話やインタビュー、ストーリーを聞き、分かったことを伝え合うなど、実生活や実社会に生きて働く力を目指した工夫が随所にみられます。QR コードも充実しており、動画等にも踏み込んで大変学習しやすくなっています。

次に、開隆堂です。

中学校英語科に接続するよう、英語らしい発音を意識した付録ページが設けられています。新しい語彙から表現、言語活動へと難易度が上がっていき、十分な練習量と活動量が確保されています。また、書く活動(文字指導)に関し

では、巻末のワークページにまとめられていて、分量もあり丁寧に練習できます。

写真や絵などは見やすく、すっきりとした構成であります。語彙（辞書）のページに4線がなく、書き写しにくいことが予想されます。カード類はミシン目がほしいという意見がありました。

次に、学校図書です。

各 Lesson の終わりに統一の絵本を用いて学習をまとめている。歌による指導も充実しています。Lesson の最後では、語彙を増やせるよう、「word corner」があります。英語を書く練習の部分はゆったりしたスペースがありますが、その他の文字は小さく書かれているものが多く、定着をめざすためにはさらなる工夫が必要であると考えます。

挿絵などは、見やすいが、写真が少なく、デジタル教材に動画がなく、絵と音声だけが扱われているので、どの児童が話しているのか見分けがつきにくいと思います。

次に三省堂です。

各単元を3学期制で区切り、学びのプロセスを「学びの見通しを立てる（HOP）」、「コミュニケーション活動を通して基礎的・基本的な知識・技能を習得する（STEP）」、「実際の場面で表現する（JUMP）」の3段階で構成し、加えて場面に特化した活動が単独の活動として設けられています。

子どもたちの生活場面（学校や家庭、地域）を扱ったパノラマ図や、馴染みのある「お話」を取り入れることで、子どもたちが言語活動に興味を持って取り組めるように、生活に密着した場面設定によりコミュニケーション活動の意欲を引き出せる構成になっています。

写真、挿絵などは適切であるが、巻末にはアルファベットカードのみで絵カードがないので、欲しいところです。

次に、教育出版社です。

1ページにつき、1つの活動で構成され、どの児童にも取り扱いやすく見やすい工夫がされています。

Lesson のまとめとなる発展的な Activity に学級全員で作り上げる「できることの本」や、これまでに学んだことを使って作り上げる「My Book」などを用いることにより、子どもたちにとって具体的で主体性を高める学習の流れになっています。紙面には4線上に書くページが少ないため、書く力の定着のためには別冊のワークの活用が必要となります。

光村図書です。

各 Unit の導入時にパノラマのイラストとアニメーション映像を用いることでストーリーを通して「何を学ぶのか」が明確となり、ゴールに向かった学習へと導いています。ページ下部には「一言フレーズ」や「発音」、「アルファベットの音と文字」が示され、主体的な学びとともに学習の深まりに効果的であります。

子どもたちの「学びたい」という意欲を高める面から考えると、Goal の表現にはさらなる工夫が必要であります。

資料は見やすく使いやすいですが、巻末辞書ページにおける 4 線使用や絵カードへのミシン目などが加わると、授業での活用の幅が広がると思います。

最後に、啓林館です。

アクセントマーク（強く読むところ）を表記し、中学校英語科との接続が図られています。聞く活動から言語活動へとスムーズに学習できる流れになっています。巻末にカードや絵辞典がついており Unit の最後の「Let's read and write」では、書く・読むの力を育むための工夫がみられますが、文字を書くページが少ないため、文字に慣れ親しむにはワークシートを必要とします。

このようなことから、調査研究部会から「東京書籍 NEW HORIZON Elementary」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

毎年、卒業式に行くと子どもたちが英語で夢を語り、将来を語り卒業していきます。それを聞いた親が理解して喜んで聞いています。授業を終えた後、どう家庭へつなげていくのか、生きた英語を家庭教育に生かしていくのかということ考えた時に、本市の英語教育が生きているな、これからのグローバル化社会の中で生きた英語ということから考えるとすばらしいと東京書籍から思いました。

QR コードが本当に良いのかなと思いましたが、本物に出会う、本物の発音に出会えるというのは、さらに高いレベルで勉強するにはよいと思います。

○八耳委員

小学校での英語科として、どこまで子どもたちに力をつけるのか。書きすぎのもつらいかな。今は、楽しみながら英語活動している中で、書くというこ

とをどの辺りまで小学校の時点で身に着けさせるのか？

○事務局

4 技能の中で書くことは一番抵抗があると思いますが、どの学年でもたくさん聞いて、話して発話をいっぱいした後、文字を見ながらなぞる、またはブランク（ハコ）を埋めていくという方法で無理のないような形でスタートするよう構成してもらっています。

○八耳委員

パッと見るとたくさん書かないとだめなのかなという印象を受けるのですが？

○事務局

教科書会社によって分量に違いはあるが、出てきたものをすべて使うということではなく、たくさん書けた、書けなかったではなく、楽しみながら慣れ親しんでいくという方向ではあります。

○教育長

これまでは小学校の英語活動で慣れ親しんで、それをうまく中学校の英語科につなげてきましたが、小学校に英語科が入り、しかも書く量が増えることによって、最初に英語嫌いをつくってしまうのではないかと八耳委員は危惧されていると思いますが、いかに子どもたちが英語嫌いにならないように、楽しめる英語活動の精神を忘れずに、中学校英語科につないでいければと思っています。

○久家委員

八耳委員と同じく、どこまでの力を求めているのでしょうか？東京書籍は英文が多いと思います。簡単な表現は小学校で身につけてほしいという設定ですか？

○事務局

3・4年生から35時間の外国語活動の積み上げを見て、5・6年生のスタートが設定されています。何回も何回も子どもたちが話して聞いて慣れ親しんだということで、現在しているものよりはセンテンスは長くなっているとは思いますが、3年生からの学習活動で、十分にインプットした形で、5・6年生もスタートし、中学校からのスタートにもつないでいきます。これは新学習指導要領に沿って設定されています。

【採決】

○教育長

よろしいでしょうか。質問がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**NEW HORIZON Elementary**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

○教育長

賛成多数で、**外国語科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「生活」教科用図書の選定理由の説明】

小学校生活では8社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 あたらしい生活」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

はじめに東京書籍です。

上巻1ページから13ページは、「どきどきわくわく1年生」というスタートカリキュラムの単元ですが、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿が、イラストや解説文で明記されていて、保護者や教員にも小学校へのつながりを共有できるように編成されています。

上の75ページの「あそびずかん」や80ページの「おもちゃずかん」や115ページからの「かつどうべんりてちょう」や「ポケットずかん」が、単元中や巻末に豊富に掲載され、児童の知的好奇心を高めたり、気づいたことを交流したりするのに役立ちます。

教科書のサイズが、現在のものより大きく(A4)なっていますが、大きくなったことで、写真や挿絵がより鮮明で見やすく表記され、内容も豊富で充実したものになっております。

上の28ページから32ページをご覧ください。植物の成長の過程をたね、子葉、つぼみと並べたページがパノラマページになっているため、大きく見やすく成長を見通すことができる工夫がされています。

次は、大日本図書です。

上巻 15 ページには、「はなしかためいじん」「ききかためいじん」、33 ページには、「せいかつことば」が、また 39 ページには、「きらきらことば」などが設けられていたため、児童の語彙力向上、豊かな表現力の育成、表現活動の充実が図れるように工夫されています。

60・61 ページのように写真や資料、さし絵などが小さくまとまっているので、もう少し大きく見やすい写真やさし絵の方が低学年の児童にはよいのではないかと思われま

次は、学校図書です。

上巻 36 ページや 104 ページ、下巻 22 ページをご覧ください。上下巻とも単元末には、感謝の気持ちを大切に

する配慮や考え方が表れています。上の 18 ページなど、子どもの表情も豊かで写真やイラストが大きくて見やすいのが特徴です。臨場感ある写真は、活動意欲を引き出す配慮がされていると思

次は、教育出版です。

上巻の 35 ページをご覧ください。栽培や飼育等の単元には、約束やヒントが示され、触れる、さわる、比

べるなどの具体的な活動がわかりやすくなっています。巻末には、上下ともに「学びのポケット」が掲載されており、道具の使い方や記録の仕方など学習を支える資料が掲載され、基本的な事項を学ぶことができます。ただ内容をもう少し充実させたり、見やすくしたりするなどの工夫があるといいと思

次は、信州教育出版社です。

見本の教科書がありません。信州の教育出版ということで、ヤギの飼育が取り扱われているなど特徴的な部分がありました。また、ペットボトルなどで乗れる船をつくる活動など、生活科としては難しい、発達段階以上の内容が取り扱われていました。いろいろな活動において、安全面や衛生面に配慮が必要かなという部分もありました。また、まちの様子や行事の写真が信州に限定されているので、滋賀県ではなじめないかなと思

次は、光村図書です。

上巻の 50 ページをご覧ください。季節に応じた自然の遊びなど、子どもが身近で親しみやすい活動を多く取り入れる工夫がされています。107 ページから 110 ページの見開きでは、「きせつのおくりもの」と題して、定点で風景の変化に気づけるよう工夫されています。

文字のフォントも手書きのようなものが使われていますが、低学年の教科書

としてはあまりふさわしくないのではないかと考えます。

次は、啓林館です。

上巻の 12 ページ、48 ページ、76 ページ、102 ページは、校庭の春夏秋冬の変化、36 ページ、78 ページは、公園の自然の変化、身近な変化に気づかせられるよう工夫されています。

31 ページや 33 ページをご覧ください。気づきやこうしたいという願いや思いを吹き出しやページの右側にめぐり言葉で示し、学習の流れや連続性、ひろがりができるよう配慮されています。

最後に日本文教出版です。

上巻 38 ページをご覧ください。植物を育てる単元『きれいなはなをさかしたい』で、たねをまく様子や芽が出て子葉、本葉とだんだん育っていく様子が 1 ページずつにコンパクトにまとまっていますが、1 年生にはもう少し詳しい内容で、見やすく文字の量も少なくてもいいのではないかと考えます。

また、37 ページ、40 ページ、42 ページのところで、種から葉、つぼみ、花、実までの育っていく花の写真のページを山折りして比較できる工夫がされています。ただ山折りする作業が 1 年生では上手にできない児童もいるため、より工夫がされるとよいと思います

総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 あたらしい生活」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

色んな生活について学ぶ、1・2 年生で最初に学ぶ、ある意味大切な教科です。

○安倍委員

東京書籍の「どきどきわくわく」、何がどきどきわくわくなんだろうと思わず興味関心、知的好奇心が高いレベルで書かれている。「町探検」ではなく、「わくわくどきどきの町探検」となっている、野菜がどのように育っていくのか、ぐんぐん育っていくという前書きが書かれているなど目次のキャッチコピーをおもしろい形で表していると思います。

それから、保護者の皆様への記載もあり、就学前教育と小学校とのつながりやスタートカリキュラムの良い見直しにもなると、そういった意味でも非常に良いと思いました。

学校図書の朝顔で、「こんなに咲いたね」ではなく、「命にありがとう」という捉え方も大事にしなければならないなと思いました。さらに自分たちが学んだことを次の1年生にどうつないでいくのかということも大事で、命のつながりとして表しているなど感じました。今後の視点として大事にしたいと思いました。

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**あたらしいせいかつ・新しい生活**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**生活科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「家庭」教科用図書の選定理由の説明】

小学校家庭では2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「開隆堂出版 小学校わたしたちの家庭」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

目次は2社とも見開きページとなっています。

東京書籍では上が5年生、下が6年生で、何を5年生で勉強し、何を6年生で勉強するのかが示されています。

東京書籍では單元ごとの分量がやや多めで、5年生の学習内容が盛りだくさんになっています。教科書の配列通りの学習順序で指導すると指導者の力量によっては、特に経験の浅い教師ですが、学年内に終えることが難しかったりします。調理や手縫い、ミシン操作などの実習技能の動画がまとめられ、QRコードを読み取ることで、わかりやすく示されています。しかし、QRコードは、巻頭にしかなく、見たいところがどこなのか探すのに少し時間がかかります。また、あまりに中身が詳しすぎて、参考書のように感じることもあるという意見がありました。

開隆堂では配列や1単元の分量が適切です。学習の順番が変更可能なように、例を示したり、単元のまとまりが考えられたりしています。また、小学校家庭科の学習が中学校家庭分野にどのようにつながっていくのかが、一覧表に示されていて、見やすくなっています。ミシン操作や調理の包丁の扱い方などの実技の動画が、教科書のページに沿ってQRコードを読み取ることで、その場ですぐに見られて理解に役立ちます。

このようなことから、調査研究部会から「開隆堂出版 小学校わたしたちの家庭」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

2冊ですので、2冊を見比べていただくと分かりやすいと思います。
ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

家庭科というのは、核家族化や少子化も含め、父母と一緒に協働体として生活していくという、この今の社会の在り方を一番に学ぶということでは家庭科は大事であり、生活力をどうつけていくのか、また男女の協働生活をどのように組み立てていくのかを見つめるためにも大事なことだと思いました。

また、開隆堂出版の右でも左でもよいという幅のある捉え方、配慮されている捉え方は、子どもたちが家庭に密着していくのに大変よい効果があるなど思いました。

【採決】

○教育長

そのほかはよろしいでしょうか。特にご意見がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**開隆堂出版**の「**小学校わたしたちの家庭科**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

○教育長

全員賛成で、**家庭科**は**開隆堂出版**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「体育」教科用図書の選定理由の説明】

小学校保健では5社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい保健」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

授業時数が限られた中での学習です。中学年で年間4時間、高学年で8時間という限られた時間に、指導しやすい図書であること、定着させたい内容がよりわかりやすく表記されている図書、指導者が指導しやすいようにワークシートもかねられそうな図書、情報量や読み取りの苦手な子どもにとっても読み取りやすい工夫がしている図書などの視点もさらに追加して検討を行いました。

東京書籍の教科書は、書き込むスペースが他社の教科書より広いこと、教科書をワークシート代わりに使うことでこの教科書だけで学習が進められるという良さがあります。また、3・4年の21ページをご覧ください。文節で言葉をきってあり、読みやすくなっています。

協議会の中では、限られた時間の中で少し盛り沢山すぎるのではないかという意見もありました。しかし、色んな情報から考えるという力をつけることも大事な視点であること、そこは指導者の工夫も必要だということも意見としてありました。

やはり、全体的な総合的判断として、協議会としても調査研究部会から推薦いただきました「東京書籍 新しい保健」を教科用図書として選定いただきました。

【質疑】

○教育長

特に気になる点等ありましたらお願いします。

なし

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**東京書籍**の「**新しい保健**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(5人)

全員賛成で、**体育科**は**東京書籍**の教科用図書を採択することに決定します。

ここからは、八耳委員から欠席の報告を受けておりますが、出席委員3名と私を含め4名の出席ですので定数には達しています。

【小学校「音楽」教科用図書の選定理由の説明】

小学校音楽では2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「教育芸術社 小学生の音楽」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

音楽には共通教材といい、「夕やけこやけ」「ふじさん」「さくらさくら」「おぼろ月夜」など、日本で昔から大事に歌われてきた歌唱教材をどの学校でも歌うことが明記されています。この共通教材を教育芸術社は題材の中に組み込んで扱っています。教育出版は、題材とは別に掲載していることが多く、学習のねらいがはっきり示されていないことから、題材構成に少し不十分さを感じました。

次に、教育出版の2年生24ページを見てください。音楽作りでは旋律もリズムも選び、その上で友だちの作った旋律と重ねて演奏するようになっています。ただ、高度な学習活動で戸惑いを見せる児童もいると思われます。教育芸術社では2年生27ページを見てください。こちらは旋律だけを選んで演奏するようになっています。学習活動に無理がなく、音楽の苦手な児童も楽しく学びながら活動する中で、ねらいを達成することができると思います。

このようなことから総合的に判断し、調査研究部会から「教育芸術社 小学生の音楽」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

音楽で何を学ばせるのか。歌詞が伝えること、様子を感じる気持ち、イメー

ジ化を大事にしていくことが大切だと思います。

「夕やけこやけ」の写真も、誰かと一緒に見た夕焼けのような写真に思いをはせられる。私たちが伝えなければならない共通教材がこの中には満載されていると思います。

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**教育芸術社**の「**小学生の音楽**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**音楽科**は**教育芸術社**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「図画工作」教科用図書の選定理由の説明】

小学校図画工作では2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「日本文教出版 図画工作」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

これから選定した理由をいくつか述べさせていただきます。

開隆堂8ページのすきなものいっぱいと日文の10・11ページのかきたいものなあにをご覧ください。開隆堂は絵のサイズを記載しているので、小さな紙に描いていることがわかります。四つ切や八つ切りの画用紙に描いたり、白い画用紙に描いた場合に、背景の色をつけたりする必要がないということがわかります。大きく描くことや絵を描くことが苦手な子にとっては安心できます。しかし日文は、見開きで題材を取り上げていることにより、教科書を開けたとたんに子ども達の好きそう物がいっぱい目に飛び込んできます。苦手な子も教科書をヒントにして真似をして描こうという意欲が持てます。

開隆堂14ページと日文の12・13ページをご覧ください。この題材は両者とも見開きになっています。はさみを使った工作で、開隆堂は「チョッキンパツでかぞろう」の題材名で導入文が「おって、きって、ひらいたら、どんな形になったかな。貼って、つなげて、飾ってみよう。」です。日文は「ちよきちよきかざり」の題材名で「紙を折ったり重ねたりして切ってみよう。どんな形ができるかな。できた形で飾ってみよう。」という導入文となっています。どちらも

切り方などが掲載されていますが、導入文や掲載されている写真、吹き出しを比べると、日文の方が子ども達の発想を促したり、言語活動につなげたりし易くなっていると考えました。

総合的に判断し、調査研究部会から「日本文教出版 図画工作」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

両社の教科書を見て、就学前からいろんな活動をしてきたのだなと思います。さらに、小学校ではより深く学んでいき、いかに感動して学んでいくのか、どう気づかせていくのかが大切であり、さらにそこから挑戦したい意欲や想像力を掻き立てるのではないかと思います。

そして、そこには必ず友達との会話＝人間関係があるということを考えると、教科横断的、総合的に考えられていると思います。

○西田委員

日文には64ページにはさみの使い方が書いてあります。その中に相手に持ち手を向けて渡すといったところまできちんと書いてあります。安全面の配慮もあり素晴らしいと思いました。

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。お諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**日本文教出版**の「**図画工作**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**図画工作科**は**日本文教出版**の教科用図書を採択することに決定します。

【小学校「特別支援学級」教科用図書の選定理由】

小学校特別支援学級の部会では、本年度、廃版になった2年生の算数科、そして、来年度から教科として実施の5～6年生の外国語の一般図書に関する調査研究をしました。

1つ目の小学校「特別支援学級」2年生算数科について説明します。

2年生では、現在は、「わくわく！かずのえほん」で、1～10まで数える、単位、何番目、お金、時間、そして最後には「まちに出かけよう」として、お買い物や生活場面の中で、数字や時間、お金などを総合的に生活の場で言葉と数を関わらせながら学ぶようになっていきます。この「わくわく！かずのえほん」に代わる本を探しました。

1冊目は、三省堂の「かずの絵じてん」です。

ものを集まりとしてみることで、数の大小比較、順序の区別、日常生活に必要な（お金、時計、カレンダーの）概念等が系統的に学習できるよう配慮されているので、学習指導要領に示された内容に沿っているといえます。「1～5の数、6～10までの数、そして、二桁の数」という系統的・発展的な配列になっており、15ページのとおり、見開きで完結する内容になっているのも分かりやすいです。

82ページには、一日の流れに沿った「じかん」の学習、そして、日にちの読み方、お金の種類と数え方、P90には、実際のお買い物の場面を学習します。

このように、学ばせたい内容が幅広く網羅されているので、教科書として適切であり、1年生算数で使っている教科用図書の次の段階として、本書はふさわしいと判断しました。

2冊目は、小学館の「かずあそび 1・2・3」です。

1から10までの数について、物と物とを対応させ、物の集まりとして数詞や数唱、数字がわかるよう、そして、数の大小比較や順序が系統的に構成されており、学習指導要領に示された内容に沿っているといえます。すべて、ひらがな表記なので、自分で読み進められるよう配慮されています。

気になる場所としては、26ページ「あわせていくつ？」のページは、問いかけと回答が1ページの中に入っているのを見づらいです。そのため、指導者が答えの部分を隠しながら学習を進める必要があります。

また、日常生活に必要な「とけい」「おかね」については、ほんのわずかしき記載がありません。

3冊目は、「とけいのえほん」です。

時計に興味を持ち、日常生活の中で時刻を読む技能や、時刻と日常生活を関連付けて思考する力を身に付けるという、学習指導要領に示された内容に沿っ

ています。算数でつまずきがちな「時計」に焦点を当てた学習内容です。

気になる点もあります。児童の日常生活の流れに関わりの深い挿絵もありますが、例えば、1 ページ深夜の挿絵のように、1 時（深夜 1 時）からスタートし、2 時、3 時…と進み、児童の日常生活とは結びつけにくいものもあります。

調査研究部会からは、「三省堂 かずの絵じてん」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

なし

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。

まず、小学校 2 年算数についてお諮りします。ただ今、事務局から提案がありました三省堂の「かずの絵じてん」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4 人)

全員賛成で、**特別支援学級 小学校 2 年算数**は三省堂の教科用図書を採択することに決定します。

二つ目の小学校「特別支援学級」5～6 年生英語科について説明します。

1 冊目の「ひらがな和英えほん」は、日常生活に関わる身近で簡単な英単語が集められ、英語に親しみながら学習できるよう工夫されております。

身近な食べ物、動物、文房具、色など基本的な英単語の文字が大きくわかりやすく表記され、理解を助けるよう工夫もされています。1 ページに単語が 5 個ずつ、あ～わ の五十音順に並べているので見やすいです。

イラストに対応して日本語、ページをめくると英語になるような仕掛け絵本の形で、楽しく学習することができるよう工夫もされています。

ただ、掲載している単語は、身近なものを多く取り上げられており、親しみやすいですが、学習の広がり（日常生活への関連）では十分であるとは言え

ないように思います。

2冊目の、「絵本ABC」は、英語の基本的な表現に慣れ親しむための基礎となるアルファベット表記に興味を持つことができるよう工夫されています。生活の中でよく目にするアルファベットが実生活に近い場面絵の中で掲載されているので、すぐに暮らしの中や実体験の中でその状況を思い出したり見つけたることができます。知的障がいのある児童の中には、成功経験が少なく主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことがあります。この図書は、見出しが大きなアルファベット一文字なので、抵抗感が少なく、興味関心をもって学習できる構成になっています。

少し中身が古く、レコードの種類など、最近はあまり利用がなく児童の身近でないものも登場するところがありますが、それ以外は実生活によく出てくるものばかりで馴染みがあります。

3冊目は、「英語 うたの絵じてん」です。歌をとおして英語の音声に関する感覚を身に付け、英語への関心や意欲を高めることができます。歌や手遊びに関心がある児童には最適です。

見開きで一曲になっており、挿絵の色がきれいで曲の感じがイメージしやすいです。

難点としては、歌（音声）として耳からの情報が中心となるため、ことば（歌詞）が聞き取りにくい部分もあるということです。

調査研究部会からは、「岩崎書店 絵本ABC」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

なし

【採決】

○教育長

質問がないようですので、それでは採決に入ります。

ただ今、事務局から提案がありました**岩崎書店**の「**絵本ABC**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**特別支援学級 小学校5～6年外国語**は**岩崎書店**の教科用図書を採択することに決定します。

【中学校「特別支援学級」教科用図書の選定理由】

中学校特別支援学級の部会では、内容が古くなっておかれたままの2年生、3年生の数学、そして、供給不能となった1年生、3年生理科の一般図書に関する調査研究をしました。

1つ目の中学校「特別支援学級」数学について説明します。

数学とはいうものの、知的学級の生徒が取り扱う数学の教科書を現状見つけるのは非常に難しいものがあります。そのような中、取り扱う内容が算数に近いもの、2年生数学では「日本教育研究出版 ひとりだちするための算数・数学」を探し、現行の「わかるさんすう 3」と比較しました。また、3年数学では、「誠文堂新光社 算数の図鑑」を探し、現行の「わかるさんすう 4」と比較しました

2年生数学から説明します。

「ひとりだちするための算数・数学」では、基礎を学ぼうと生活シーンで学ぼうの2つのシーンで構成され、「基礎を学ぼう」では、「数量」「図形・グラフ」「時間・こよみ」「金銭」など日常生活で活用できる数学的な要素がちりばめてあります。「生活シーンで学ぼう」では作業や生活・自立の時間に活用できる工夫があります。また取り扱っている内容が高等養護学校での入試問題にも類似しており、系統的に勉強を重ねると受検対策にもなります。

そのようなことから、現行と比較し、調査研究部会からは、2年数学で、「日本教育研究出版 ひとりだちするための算数・数学」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

「わかるさんすう 3」「わかるさんすう 4」の発行年月日が1965年、出版から50年以上経過していることで変えていく必要があります。

○安倍委員

それだけこの本がよかったということなのか、それともそれ以上の書籍が出てこなかったということなのか、どちらですか。

○事務局

毎年、例年調査研究はしていますが、中学校の数学ですが、中身は小学校の算数を教えたいというところで、なかなか探せていなかったということです。

○教育長

支援学級については、廃版になったものだけ変更していたが、ここ数年については、廃版になっていなくても、その本が悪いということではなく、順次検討していくという形に、今にあった数学にしていこうと変わってきていることもあります。

○安倍委員

就労も含めて、18歳で自立を促した、生活力を高めていく必要がある中で、重要な部分がしっかりと捉えてあることは大事な視点だと思いました。

【採決】

○教育長

中学校2年数学についてお諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**日本教育研究出版の「ひとりだちするための算数・数学」**を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**特別支援学級 中学校2年数学**は**日本教育研究出版**の教科用図書を採択することに決定します。

次に、3年生数学について説明します。

「算数の図鑑」では、図版やイラストを多数使用しながら、誰でも数学の内容が理解されているように工夫されています。内容的には基礎から中学校レベルまでのものまで扱い、特に図形や統計では現行の中学生が扱う内容であり、数学のないように踏み込んでいます。協議会では、数学の教科書として図鑑を扱うことが好ましいのかという意見もありましたが、図鑑とタイトルには出ているが、教科書として使っていけるのではないかと、また、中学校3年間の集大

成として、また卒業後も数学的な力をつけていくバイブルとして活かせるのではないかということも考えられます。

調査研究部会からは、3年数学で、「誠文堂新光社 算数の図鑑」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

○安倍委員

障害の程度には幅があり、子どもたち一人ひとりには特性があり、その幅のある子どもたちを受け入れていこうとすると、また将来的にこれを持っていると役に立つのだという目的があると、これほど大きいものになるのか、図鑑で勉強するのかということには抵抗があるが、生活にどう密着させていくのかも含めて考えていくと必要なのかなと思います。

ただ、子どもたちが学校で取り扱う教科書として考えた時に、300ページほどある、重たいものが扱えるのかと思うと、もっとコンパクトなものへの配慮は必要ではないかとは思いますが、しかし、指導者側の配慮によって、この本が活きるか活きないかは変わってくるのかなと思いつつ選びました。

○教育長

障害の種別にもよると思いますが、この本に興味を示すのが、本当に知的の子どもたちなのか。情緒障害の子どもなら図鑑に対してすごく興味を示すと思うが、知的の子どもにも本当に適しているのか疑問です。

【採決】

○教育長

中学校3年数学についてお諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**誠文堂新光社の「算数の図鑑」**を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(3人)

賛成多数で、**特別支援学級 中学校3年数学は誠文堂新光社の教科用図書を採択することに決定します。**

続いて、中学校「特別支援学級」理科の一般図書です。

1つ目の中学校「特別支援学級」1年生理科について説明します。

供給不能となった現行本の代わりとして、1年理科では、「でんじろう先生のわくわく科学実験」と「中学生理科の自由研究パーフェクト」の2冊で比較しました。また、3年理科では、「科学のなぜ新辞典」と「信じられない現実の大図鑑」の2冊で比較しました。

「でんじろう先生のわくわく科学実験」は64ページに、「中学生理科の自由研究パーフェクト」は37ページに振り子の実験があります。「でんじろう先生のわくわく科学実験」では、実験1から実験2へと進め、解説があり、さらに日常生活との関連まで言及しています。「中学生理科の自由研究パーフェクト」は実験からレポート作りに及ぶものの、内容的には難しいかなと思います。

他にも、イラストや図版の量等から総合的に判断しまして、子どもたちが楽しく実験や科学に興味を持てるようにということと、調査研究部会からは、1年生理科では「日東書院 でんじろう先生のわくわく科学実験」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

子どもたちもテレビ等ででんじろう先生も見ており、興味があるのではないかと、協議会の提案としては、「でんじろう先生のわくわく科学実験」を推薦されていますが、中を見ていただき、ご意見等ありましたら、お願いします。

なし

【採決】

○教育長

中学校1年理科についてお諮りします。ただ今、事務局から提案がありました日東書院の「でんじろう先生のわくわく科学実験」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**特別支援学級 中学校1年理科**は日東書院の教科用図書を採択することに決定します。

中学校「特別支援学級」3年生理科について説明します。

現行本の代わりとして、「科学のなぜ？ビジュアル新**事典**」と「信じられない現実の大図鑑」の2冊で比較しました。

「信じられない現実の大図鑑」の15ページでは、地球と木星の大きさが一目瞭然で比べられるなどビジュアルを用いて比較する中で地球や宇宙のふしぎに興味を持たせる内容となっています。

「科学のなぜ新事典」では213ページから274ページまでの61ページにわたり命の誕生から体のそれぞれのパーツについて、生徒のなぜ不思議にふれています。

子どもたちには、なぜ？どうして？と深く興味を持てる教材であること、そこから主体的に学べるものである教材であることなどから総合的に考えると、調査研究部会からは、3年生理科では「受験研究社 科学のなぜ？ビジュアル新事典」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質疑】

○教育長

ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありますか。

訂正：「科学のなぜ？ビジュアル新辞典」→「科学のなぜ？ビジュアル新**事典**」

【採決】

○教育長

最後に、中学校3年理科についてお諮りします。ただ今、事務局から提案がありました**受験研究社**の「**科学のなぜ？ビジュアル新事典**」を採択することに賛成の方、挙手をお願いします。

(4人)

全員賛成で、**特別支援学級 中学校3年理科**は**受験研究社**の教科用図書を採択することに決定します。

8. 閉会 教育長が8月臨時会の閉会を宣言